

心の目

連載エッセイ ②49 札幌かに本家社長 日置 達郎

『愛知用水の歴史』⑦

愛知用水の通水から今年で五十五年が経過しますが、かつての姿とは大きく様変わりしました。以前は水路がむき出しになっていて、両側はフェンスによって遮られ外から侵入できないようになっていました。滔々と流れる水は薄暗く、どこことなく気味悪い感じもありましたが、今は水路の上に蓋をすることで目隠しがなされ、その上を市民が憩えるような公園として整備し活用している所も多いようです。

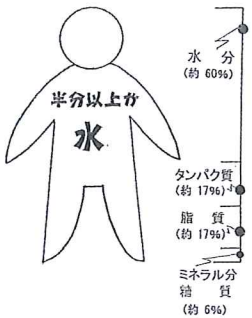
以前「明治用水」について書いた時に、その実現に向け尽力した『都築弥厚翁』について触れました。地元の安城では、彼の偉業を称えるための公園を作ったり、通水の周年記念行事を大々的に行ったり、

日頃から親が子供たちに話し聞かせたり、地元の方々の感謝と崇敬の念は依然として強いようです。それに比して、知多半島に住む子供たちが、果たして「久野庄太郎」氏や「濱島辰雄」氏の名前をどれだけ知っているでしょうか。愛知用水が時代とともに様変わりし目に触れる機会が少なくなるにつれ、先人の偉業も一掃に風化させてしまうようなことがないように、と願うばかりです。

人間が生活する上での基本的な要素として、「衣・食・住」の三つがよく挙げられます。ただし、「生きる」ということに特化するなら、この中では間違いなく「食」が筆頭であり、「食」なくして「衣」も「住」もありえません。さらに、「食」も細かく見ていけば「食糧」と「水」に分けられます。この二つについて危機的状況に置

かれた自分をイメージし、『どちらか一つしか手に入らないとしたら…?』と問われれば、あなたはどうか答えるでしょうか。時々の状況によって判断は違ってくるでしょうが、少しでも生き延びる可能性を考えるなら、「水」という選択になりはしないでしょうか。人は水だけで二、三十日以上生き続けることができると言われており、逆に一滴も飲まなければ四～五日程度で死んでしまいます。実際人間の体の六割は水分で出来ているくらいですから、水の重要度は推して知るべし、です。

～人の体組成～ (成人)



今でこそ蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水ですが、かつては水を奪

い合い度々争いが起こっていた時代もあったと思います。それを解決したのが「治水」という技術の醸成でした。水をめぐっての争いは減るでしょうし、水が手に入りにくい時期でもある程度の水が確保できていれば、明日の生活に余裕が生まれますし、少なくとも、生きるということに対して夢や希望が持てます。その意味で、「愛知用水」は、知多半島に生活する住民に大きな希望と喜びを与えてくださったと言えます。今ある生活の豊かさをもたらし続けていた先人たちの取り組みと偉業に、改めて心から感謝したいと思います。

(この章終了)



著者プロフィール

昭和10年、三重県津市美杉町出身
札幌かに本家チェーン代表取締役
店舗設計や庭造りが趣味。
日本飲食産業協会副会長
名古屋まつり・英傑行列

第十代徳川家康役

平成28年10月1日発行
月刊「有言」10月号
掲載